
Chapter 1	相関係数	1-1
1.1.1	相関係数の概要	1-2
1.1.2	散布図	1-3
1.1.3	正の相関、負の相関、無相関	1-4
1.2.1	ピアソンの相関係数	1-7
1.2.2	相関係数の検定	1-9
1.2.3	スピアマンの相関係数	1-10
1.3.1	疑似相関と偏相関係数	1-12
1.4.1	使用できる変数の尺度	1-14
1.4.2	相関係数による分析の実行手順	1-16
1.4.3	サンプルデータの確認	1-17
1.4.4	オプションの設定	1-19
1.5.1	単純散布図の作成	1-22
1.5.2	単純散布図の編集	1-25
1.6.1	ピアソンの相関係数の計算	1-28
1.6.2	ピアソンの相関係数の結果の解釈	1-30
1.6.3	相関行列テーブルの編集	1-33
1.7.1	スピアマンの相関係数の計算	1-35
1.7.2	スピアマンの相関係数の結果の解釈	1-37
1.8.1	偏相関係数の計算	1-39
1.8.2	偏相関係数の結果の解釈	1-41
Chapter 2	回帰分析	2-1
2.1.1	回帰分析の概要	2-2
2.1.2	回帰式	2-4
2.1.3	回帰式の説明力	2-6
2.1.4	残差	2-7
2.1.5	多重共線性	2-8
2.1.6	独立変数の自動選択	2-11
2.1.7	使用できる変数の尺度	2-14
2.1.8	ダミー変数	2-15
2.1.9	回帰分析の実行手順	2-16

2.2.1	サンプルデータの確認.....	2-17
2.2.2	オプションの設定.....	2-19
2.3.1	単回帰分析の実行.....	2-22
2.3.2	単回帰分析の結果の解釈.....	2-25
2.3.3	単回帰分析の実行 - 2値の独立変数 -	2-31
2.3.4	単回帰分析の結果の解釈 - 2値の独立変数 -	2-33
2.4.1	重回帰分析の実行.....	2-36
2.4.2	重回帰分析の結果の解釈.....	2-40
2.4.3	多重共線性の確認.....	2-48
2.5.1	ステップワイズ法による変数選択.....	2-52
2.6.1	残差分析 - 影響力と残差の統計量 -	2-60
2.6.2	残差分析 - グラフによる診断 -	2-64

Chapter 3 ロジスティック回帰分析..... 3-1

3.1.1	ロジスティック回帰分析の概要.....	3-2
3.1.2	オッズとオッズ比.....	3-4
3.1.3	二項ロジスティック回帰.....	3-6
3.1.4	使用できる変数の尺度.....	3-7
3.1.5	ダミー変数.....	3-8
3.1.6	適合度の評価.....	3-9
3.1.7	多重共線性の問題.....	3-14
3.1.8	ステップワイズによる変数選択.....	3-15
3.1.9	ロジスティック回帰分析の手順.....	3-17
3.2.1	サンプルデータの確認.....	3-18
3.2.2	オプションの設定.....	3-20
3.3.1	ロジスティック回帰分析の実行 - 単変量 -	3-22
3.3.2	ロジスティック回帰分析の結果の解釈 - 単変量 -	3-25
3.4.1	ロジスティック回帰分析の実行 - ダミー変数 -	3-29
3.4.2	ロジスティック回帰分析の結果の解釈 - ダミー変数 -	3-33
3.5.1	ロジスティック回帰分析の実行 - 多変量 -	3-36
3.5.2	ロジスティック回帰分析の結果の解釈 - 多変量 -	3-41

3.5.3	ロジスティック回帰分析の結果の解釈 –予測精度–	3-45
3.6.1	ROC曲線 –分析の実行–	3-47
3.6.2	ROC曲線の解釈 –AUC–	3-49
3.6.3	ROC曲線の解釈 –カットオフ値の探索–	3-51
3.6.4	ROC曲線の解釈 –カットオフ値の変更–	3-55
3.7.1	ステップワイズ法による変数選択	3-58
3.7.2	ステップワイズ法による変数選択の結果の確認	3-61

Appendix A ダミー変数の作成 A-1

A.1.1	ダミー変数の概要	A-2
A.2.1	変数の計算によるダミー変数の作成	A-3

本書では、IBM SPSS Statistics for Windows 24.0Jを使用しています。

オプションとして、Regressionを使用しています。

IBM およびSPSSは、International Business Machines Corp.の登録商標です。

本書を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。